

さんらんちょう

# 散乱長

## ■ 用語解説 ■

中性子反射率法で、全反射が起る最大値(全反射臨界値)から膜の密度や組成を知ることが出来るが、その為には物質を構成する元素とその組成で決まる量が必要でこれをその物質の散乱長と呼ぶ。